

論語鈔

公治長
一
雍也

三

和書門類			
二	四	五	一
冊	架	函	號

內閣文庫		
九	四	和
一	二	書
冊	架	號

內閣文庫		
番號	和 24513	
冊數	24 (3)	
函號	191	267

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



論語鈔卷之三

論語鈔卷之三

子曰公室有長可也雖在縲紲之中
非其罪也以其子奉之

子曰公室有長可也雖在縲紲之中

非其罪也以其子奉之

子曰公室有長可也雖在縲紲之中

非其罪也以其子奉之

子曰公室有長可也雖在縲紲之中

非其罪也以其子奉之

論語

論語鈔卷之三

公治長第五

淺草文庫

○子謂公治長可妻也。雖在縲紲之中。
非其罪也。以其子妻之。

公治長孔子の弟子也。縲紲、罪に就く。

索めて、わがめをいふ。公治長、人づか

ひに、ごめてより犯すものあり。を一度

わがめ、わがめ、獄屋にいらに入ら

ざる。科、さげさば害に

いざらむとて女子をほくろく終ふと
ぬめ可素こハ女とやうくしにんを

をい

○子謂南容邦有道不廢邦無道免於

刑戮以其兄之子妻之

南容ハ孔子の弟子ありまを身もちら

るるびにものいひと大切しんものい

邦くえられりるるる記よハ用ひ

らきてよてらきてぞま道ちる時を

答くわらう。うらうらうらあるは
き人ちりてあふの女嫁妻にき
終ふとやうも。
○子謂子賤君子哉若人魯無君子者
斯焉取斯

子賤ハ孔子の弟子ありて人ハ道徳

ありてゆもの君子なりと。ゆを魯

國に君子が多きゆゆもせんこよらあ

ゆらものちあゆ。魯國に君子がな

くハ^{ナカ}中^{ナカ}く^{ナカ}け^{ナカ}内^{ナカ}め^{ナカ}て^{ナカ}ハ^{ナカ}あ^{ナカ}る^{ナカ}海^{ナカ}き^{ナカ}
る^{ナカ}め^{ナカ}。こ^{ナカ}れ^{ナカ}ハ^{ナカ}子^{ナカ}孫^{ナカ}と^{ナカ}が^{ナカ}め^{ナカ}て^{ナカ}魯^{ナカ}は^{ナカ}小^{ナカ}忌^{ナカ}子^{ナカ}
あ^{ナカ}る^{ナカ}と^{ナカ}と^{ナカ}室^{ナカ}へ^{ナカ}入^{ナカ}る^{ナカ}。

○子貢問曰賜也何如子曰女器也曰何器也曰瑚璉也

賜ハ子貢の名るめ。瑚璉ハ宗廟までとめ
このもん。うらハこのるめ。○子孫がるも
孔子れがめ終ふ。いようめて子貢のよひ
しなるも。思ハ道をもるめ。るも。ハやうに

あるものるめ子貢れ人ぐらハちるめど
このもん。うらハこのるめ。○子孫がるも
孔子れがめ終ふ。いようめて子貢のよひ
しなるも。思ハ道をもるめ。るも。ハやうに

○或曰雍也仁而不佞

雍ハ孔子の弟るめ。雍ハことむめく
むもくもしてあはちるめ。人

の君あげ用ふるもせぞあふけぬり
るれむ。椋にのめて海へうらびぬり
乃國へるあもも好給らんがも海ハ
弟子の内あもも子路ハ魯氣のあるあ
るれむ。それにあくさひゆんこちあ
うけのこまふはげみられたこちあ
ぬ成るげき給ひてのるああ
と子路ハ海をにのくのもく給ふ
事とおもひぬ。弟子多うちにむあ

あくびあきなり。も成らるるのあ
るきゆへ孔子ももききて曰子路
勇氣ハそれにもたへるあれもあ
もくひもく。たふ。道徳をかん
ぐ。見給る。なごさと給る。
○孟武伯問子路仁乎。子曰不知也。
に海は廣大なるものるれむ。のろく
し。ゆるも。た。そのふあ。と。と。
うへ。人。あ。れ。む。に。海。ア。暫。時。を

あがもぬやうにとはちあかしくも
いへり。あかしくどと空へり。

又問子曰由也千乘之國可使治其賊也。不知其仁也。

賊は彼心いごとと軍告るあ。○武伯が
うらに養子のあすと師匠のあさぬ
こいさうなれをいひあふゆへ
あさうあ子治ハ常氣ある人なれ
も千室の國やど。廣大なるこい治れ

賊彼の軍多と。たさあうああさ
あさうあ。あさうあさうあさうあ
あさうあ。あさうあさうあさうあ
あさうあ。あさうあさうあさうあ

求也何如子曰求也千室之邑百乘之
家可使為之宰也。不知其仁也。

宰ハ邑の代官あさうあ。大夫のあさ
あさうあ。あさうあさうあさうあ
あさうあ。あさうあさうあさうあ
あさうあ。あさうあさうあさうあ

軍役に車百疋を以て
知りしん大夫のものを
にのあつたしん
赤也何如子曰赤也東
賓客言也不知其仁也

赤也何如子曰赤也東
賓客言也不知其仁也

賓客は隣國より来る使者をいふ。
赤は新法にあらざるもの
るれども未ださそく
らせ法よりある使者ありしん

○子謂子貢曰女與回也孰愈
回ハ教淵のよりなり子貢ハ方人とて

人ニ人とくくくくく
るきし孔子のより方と教回といひ

對曰賜也何敢望回回也聞一以知十
賜也聞一以知二

賜ハ子貢の名あり子貢こゝして回賜ハ

なほして教回すおまをらんや教回ハ
ひ下きつゝこの聖人の亞まで工夫も惣
一ゆのひくこのの道理におおて
一川紙きければ十の字をあらやうに
うづめより終れま極れままでよく
あや極ひのあり子負ハゆれおとす
工夫もあはきいへる一川の理をきければ
うきとひひりて漸二川此事を
おろせんゆらまでありあられハおろ

教回ハ及ゆべきとゆ

子曰弗如也吾與女弗如也

おろせぬ事ゆきと自分ハ
人及ぬ事ゆきと自分ハ
おろせぬ事ゆきと自分ハ
自分も及ぬといふ事をきかぬ
もこれより工夫と油攻くも
おろせぬ事ゆきと自分ハ
なり

○宰予晝寢子曰朽木不可雕也糞土
之牆不可朽也於予與何誅

宰予晝寢たつらとに孔子宰予く晝寢
とらとらに晝寢をたつらとらとら
けいのもぬものなりたつらとら
本くつらとらものたつらとら
ぬん牆によつらとらぬん
たつらとらものなりとらとら宰予とら晝寢

子曰始吾於人也聽其言而信其行今
吾於人也聽其言而觀其行於予與改
是

子曰の字ハのぞくぬんけい人の
とらとらときとらとら定とらとらけい
にとらとらぬんけいとらとらとら
とらとらとらとら今ハとらとらとらとら

あり。○孔子の事これ世に於ては
ても人の事なるに事多し。多し
その事文詞に於ては
いづれも人の事なるに事多し。多し
あり。○孔子の事これ世に於ては
ても人の事なるに事多し。多し
その事文詞に於ては
いづれも人の事なるに事多し。多し
あり。○孔子の事これ世に於ては
ても人の事なるに事多し。多し
その事文詞に於ては
いづれも人の事なるに事多し。多し

○ 敬母なるは人として
あり。○孔子の事これ世に於ては
ても人の事なるに事多し。多し
その事文詞に於ては
いづれも人の事なるに事多し。多し
あり。○孔子の事これ世に於ては
ても人の事なるに事多し。多し
その事文詞に於ては
いづれも人の事なるに事多し。多し

のり

○子路有聞未之能行唯恐有聞

子路ハ若クモ之ヲ聞キテモ之ヲ行フコトヲ恐ル

ル也

のり

のり

のり

○子貢問曰孔文子何以謂之文也子

曰敏而好學不耻下問是以謂之文也

孔文子ハ衛ノ大夫名ハ國文子ハ魯ノ大夫

名也○いふハ後あるもの死後に

後として魯人のり故乃若魯小行て

名を知る事あり文はより後なる也

孔文子ハ魯ノ大夫名ハ國文子ハ魯ノ大夫

名也○いふハ後あるもの死後に

後として魯人のり故乃若魯小行て

名を知る事あり文はより後なる也

のり

のり

わくどろきを鬼神のこころみ
 うやまひきふすは、及理をきぬその
 ころするまはげしきこころみ見まは
 知あめと、ハレいりこころみとめ
 ○子張問曰。令尹子文三仕為令尹無
 喜色。三已之。無愠色。舊令尹之政。必以
 告新令尹。何如。子曰。忠矣。曰。仁矣。乎。曰。
 未知焉得仁。
 令尹ハ官の名。楚國ハ家名あり。子文ハ

ナ名あり。子文ニ度して令尹にならんとす
 こと。かしきを脱しんをとりんと。三
 度してやめしむ。是れを三度とす。に
 フシイイロミ。令尹の名。子文のまことあり
 たるを。一。あつこにならんとす。令尹
 了。若けしめて。しきを移す。たる
 氣多し。けしき。人。い。と。
 子張の問あり。言後にのり。をよら。び
 福をこら。あけら。と。人。と

たゞる。又ハ後ノ悔じ。こゝろの
あきだ。に。い。い。れ。ど。事。あ。ら。ず。
し。と。あ。い。ひ。結。ハ。後。に。を。は。い。し。
結。し。ぬ。あり。

○季文子三思而後行子聞之曰再斯
可矣。

之思ハ三度に。つごら。ど。度。を。く。め。
久。し。く。思。ふ。を。り。季文子ハ
念者。く。何。を。く。ア。久。し。く。思。

季文子。後。不。行。に。せ。り。な。り。
孔子。を。し。り。し。き。終。ひ。て。曰。は。く。
道。即。の。う。た。あ。り。ま。す。あ。れ。る。事。
な。ら。ず。も。を。あ。て。て。い。し。く。い。れ。あ。て。
ら。れ。ど。あ。い。思。ふ。し。く。よ。う。に。き。ハ。
ゆ。め。あ。れ。ど。あ。ら。ず。一。結。成。ら。ぬ。
し。か。ら。い。れ。ば。迷。ひ。が。あ。ら。ず。中。道。を。
も。つ。あ。失。ふ。の。お。そ。い。ま。い。り。あ。い。
を。ば。よ。う。に。い。は。り。す。

○子曰甯武子邦有道則知邦無道則愚其知可及也其愚不可及也

甯武子凡衛の大夫なり。邦をみればこころをくらくよく治めぬ時、其の知あるものあり、邦に道なくしてみざれば、あつたにみれば、知あるものあり、身を引く難し、あつたにみれば、邦に道なくして、邦に人、始終、愚し、邦に道なくして、

邦に道なくして、あつたにみれば、知あるものあり、邦に道なくして、みざれば、あつたにみれば、知あるものあり、身を引く難し、あつたにみれば、邦に道なくして、邦に人、始終、愚し、邦に道なくして、

○子在陳曰歸與歸與吾黨之小子狂簡斐然成章不知所以裁之

陳ハ國の名孔子陳^チ了居終^チの^キ時^キ
 ころれあこま^{コト}れぬ^{コト}を^{コト}る^{コト}げ^{コト}て
 室^シ魯^ロ由^ユく^クらん^ンば^バく^クこ^コる^コき^キば
 乃^ニ也^ヤれ^レぬ^ヌも^モ子^シ也^ヤも^モこ^コら^ラと
 だ^ダて^テる^ルき^キに^ニみ^ミら^ラを^ヲ傳^ツあ^ハや^ウて^テ
 居^イる^ルも^モの^ノつ^ツ人^ニは^ハら^ラ
 小^コ見^ミ解^ゲを^ヲ人^ニに^シて^テも^モて^テも^モか^カ
 げ^ゲを^ヲ廣^ク大^クし^シて^テ小^コし^シめ^メの^ノす^スも^モ
 せ^セり^リぬ^ヌの^ノち^チり^リて^テも^モ也^ヤの^ノ目^メ

ち^チら^ラて^テ見^ミる^ルあり^リて^テよ^ヨし^シも^モ
 孝^{コウ}の^ノ功^{コウ}た^タも^モて^テや^ヤど^ドよ^ヨく^ク及^ツ理^リ
 る^ルも^モや^ヤう^ウて^テも^モら^ラる^ルも^モと^トも^モと^トも^モと^ト
 あ^アら^ラが^ガも^モに^ニこ^コり^リて^テ是^シを^ヲ指^シ南^{ナン}
 と^トも^モ立^ツて^テ也^ヤら^ラを^ヲほ^ホぐ^グし^シん^ンと
 な^ナめ^メ

○子曰^ノ伯夷^{ハク}叔齊^{バク}不^レ念^ル舊^ク惡^ヲ怨^ハ是^レ用^フ希^フ
 伯夷^{ハク}兄^ニ叔齊^{ハク}弟^ト也^{ナリ}兄^ニ弟^トを^シて^テも^モ孤^コ竹^{チク}
 こ^コし^シふ^フは^ハの^ノ君^{キミ}れ^レも^モな^ナり^リの^ノ若^ニく^ク賢^{ケン}地^チあ^ハめ^メ

こけり

○子曰^ク巧言令色足恭左丘明耻之^{ハツ}左丘^{キウモ}亦耻之^{ハツ}匿怨而友其人左丘明耻之^{ハツ}丘^{キウモ}亦耻之^{ハツ}

詞義は、さうして、巧言の、巧、
うまいこと、言、ことば、
令、あつ、
色、いろ、
足、たたり、
恭、こま、
左丘明、さきうめい、
耻、はづ、
之、これ、
左丘、さきう、
亦、また、
耻、はづ、
之、これ、
匿、かく、
怨、うらみ、
而、して、
友、とも、
其人、そのひと、
左丘明、さきうめい、
耻、はづ、
之、これ、
丘、きう、
亦、また、
耻、はづ、
之、これ、

左丘明、さきうめい、
巧言、うまいことば、
令色、あついろ、
足恭、たたりこま、
左丘明、さきうめい、
耻之、はづこれ、
左丘、さきう、
亦、また、
耻之、はづこれ、
匿怨、かくうらみ、
而友、してとも、
其人、そのひと、
左丘明、さきうめい、
耻之、はづこれ、
丘、きう、
亦、また、
耻之、はづこれ、

○顔淵季路侍子曰^ク盍各言爾志^ニ

顔、か、
淵、えん、
季路、きろ、
侍、し、
子、こ、
曰、い、
盍、あ、
各、お、
言、ことば、
爾、お、
志、こころ、

侍ハ。うをむに。わんを。し。孔子。し。つ。き。ま。し。く。向。お。し。ゆ。り。あ。は。り。す。と。う。る。あ。び。け。

し。そ。こ。を。ゆ。つ。め。を。何。と。て。う。ん。く。て。

い。し。げ。ん。ぐ。と。め。り。

子路曰願車馬衣輕裘與朋友共敝之

而無憾

人家の。る。で。て。と。し。ん。ハ。せ。ら。た。り。す。ア。く。子。の。せ。ら。り。こ。う。ゆ。に。車。馬。と。し。ん。不。れ。皮。う。る。も。の。教。て。こ。も。

だらと。同。く。や。う。に。函。箱。し。て。た。し。や。が。ま。た。ら。う。こ。も。と。し。こ。う。あ。う。し。ら。ず。な。り。た。や。う。に。し。た。し。あ。ふ。

こ。め。り。

顔淵曰願無伐善無施勞

顔淵の。こ。う。あ。げ。い。善。を。し。ら。ハ。本。より。た。事。な。し。こ。も。人。こ。も。ら。さ。ら。の。す。め。の。ご。も。に。功。を。た。ら。う。す。ハ。あ。づ。き。こ。う。あ。ま。し。こ。も。し。れ。く。が。し。ら。

ふづのすなまきだんふををみるし
しきりきにかうめ功があまきむとてうき
を大にいひむして自海をらるすハセ
しきとあふとあめ。

子路曰願聞子之志子曰老者安之朋
友信之少者懷之

孔子のころろろ終ふすハいりごと思
ひるる終るしあれ孔子のころろろ
ころろあたらん人ハあまきを終ひ朋友

ハ信とあひひり者ハ人乃りぐみるつけ
アアハ度終るるのあらしきい
にうきくのらむやうにあれしと
あひ終ふとあれしこれ聖人のころ
人このあひびなりこころあめ。

○子曰已矣乎吾未見能見其過而内
自訟者也

あ身アアアアアアアアアアアアアアア
これハせぬるの事なりあめとあめと

る。

○子曰十國以明家自改命於世者皆
不皆也入於家於人
○子曰十國以明家自改命於世者皆

雍也第六

○子曰雍也可使南面

雍ハ孔子の弟子也ハ冉字ハ仲弓可使

南面也ハ孔子ハてようんこ

がりハ孔子ハてようんこ

ゆハ孔子ハてようんこ

入於南面也ハ孔子ハてようんこ

てようんこハ孔子ハてようんこ

てようんこハ孔子ハてようんこ

仲弓問子桑伯子

子桑伯子人となりめいひつとせむ也

子曰可也簡

可いよにこいふころ簡いするも

細なり事とせむといふ子桑伯子人

となりめいひつとせむ也

と小きころいころをつげども事

れなり人となりめ

仲弓曰居敬而行簡以臨其民不亦可

乎居簡而行簡無乃大簡乎

敬いものごと大切にしてころにそゆら

不をぬといふ仲弓がむをいへる

身もたもの成大なりてい

殊末ちるなりなれやうにとうるひて

いよころいめいひつとせむ也

大もら目のまやうに干要ちるなり

とをいしてい民のころ治め

いころいなりいなる事

略して其のごとく礼法をもくろむべ
る事とこれに似てこれの大考とて
しるべしと云ふ事ありしは、
たゞし。

子曰雍之言然

孔子の可るものとゆるし給ふは、
一川れども不_{トコロ}不_フ知_ルの_ニは、
その形と伸_{キウ}ら_ハ主_ニ抱_キと_シて_シり_ト。
るまじし_ト。雍_{ヨウ}が_ハ不_{トコロ}不_フ知_ルと_シて_シり_ト。

抱_ミた_ハ、い_ハく_ハも_ハ、_{ソノ}過_トり_トは_ハ、
い_ハく_ハも_ハ、

○哀公問弟子孰為好學

孔子の_テ子_シ多_クう_ラも_シ。た_ハま_ハり_ト、
好_シし_ヤと_ハ、

好_シし_ヤと_ハ、

孔子對曰有顔回者好學不遷怒不貳
過不幸短命死矣今也則止未聞好學
者也

好_シし_ヤと_ハ、

てをみらにたふすなりやうと
うらうらをいあれあ中子のうら
教回としらるのありこまのほとに
学をぬめらるまはつた理はあ
いづきすのまはつたいづき人
ふじらういづてあの人はい
とらうとことれいづ又あやまる
あらうらまはつたあつたあ
あしてまびらまはつたあにせあり

こまをまはつてぬてまこ
まにたふまはつたまはつた
まはつたまはつたまはつた
まはつたまはつたまはつた
まはつたまはつたまはつた
まはつたまはつたまはつた
まはつたまはつたまはつた
まはつたまはつたまはつた

○子華使於齊冉子為其母請粟子曰
與之釜請益曰與之庾冉子與之粟五

角ありとん角のなりわよく犧イサミアなる
角ありとん。○因シラれ世ヨまた赤アカキいり成
あぶタツゆいふ山サニセシ川トラ等とまつるあも。牲イサミに
譯アカキ牛ウシ成モチ用モチ也。穉キウ牛ウシれども仁イロ名の所イロ
なり。まどもあなるは用モチ也とひこも。
仲チウらの父チいり。跡キヤウよりうらむとまらふい。
一人ヒトなりと仲チウらも酒トク外ヤウあり。
人ヒトい父コノの子チなるれど。いことあり。
孔子コウシの室シムく。穉キウ牛ウシハ毛ケもあイロくして。

由ユ用モチア多タく也。也モの形カタも。あれども。
まらうもまらふ牛ウシも。譯アカクく。角ツノをナリく
穉キウ牛ウシの子コなり。あして人ヒトも。まらふ
海ウミも。いふも。山サニ川セシの神カミなり。終ハシラ
る。も。仲チウらが父チいあイくも。
仲チウらに。あて。用モチ也。も。
○子曰コト。回クワイ也。其ソノ心ココロ三月不違ケツ仁ジニ。其ソノ餘ヨロ則ヨバ
日ヒ月至ツキニ焉イタレラフ而已ノミ矣。
に。い。乃ハニ酒トクなり。く。私シ欲ヨクあり

季氏ハ魯國の權威のほりた大夫なり
文子寒ハ孔子れ文子なり貴ハ季氏が
知れ而の名なり若ハよくくとして
うら辭ハともを成ましていふ事
あり季氏人をして
貴れ邑乃宰アせんといひ文子寒ハ
季氏が后になり事を死るるまこと
文子寒の人不對していふこと
は官れのごまなりたがごとくあたため

いふやめをうたに居うていふこと
るぬやうしていふこと
取川ぬくゆは是れにこあはむ
家ハ魯國と立退く汝水のあ
アハりていふこと

○伯牛有疾子問之自牖執其手曰
之命矣夫斯人也而有斯疾也斯人也
而有斯疾也

伯牛ハ孔子の弟子也冉伯牛病氣大

切らんぞに孔子。これ誠見也。子
 ありては。一に商人と畜の
 臍の下へ梅。孔子とば。水へ清く
 自然と孔子の畜へ。しき。絡やうとせむ。
 これ。厚く。疾風。玉の。可い。絡ふ。時
 の。れ。ち。め。伯牛。の。も。ぬ。孔子。と。言。く。く。
 の。も。く。せ。り。と。孔子。れ。う。あ。れ。と。君。の
 ち。も。く。る。と。し。や。了。了。の。終。く。
 肉。入。ら。ど。臍。う。め。も。ぬ。け。う。め。て

曰。げ。病。氣。の。所。る。ま。は。定。め。て。死。ん
 せ。と。れ。人。ハ。身。も。ら。あ。く。て。病。者
 あり。な。め。死。ん。ら。ず。も。つ。め。る。ま。は
 今。と。ハ。い。ひ。く。く。伯。牛。ハ。死。人
 あり。あ。る。了。了。け。ぬ。め。の。病。氣。あり。ず
 心。も。も。た。に。今。と。い。ひ。る。く。く。

○子曰。賢哉。回也。一簞食。一瓢飲。在陋
 巷。人不堪其憂。回不改其樂。賢哉。回

夫のみのみらとていふことぬきてハ
けしきもいふことぬきていふこと

いふことぬきていふことぬきていふこと

子曰カ不足者中道而廢今汝畫

カのだしぬこいふものたこらるる

いふことぬきていふことぬきていふこと

いふことぬきていふことぬきていふこと

いふことぬきていふことぬきていふこと

いふことぬきていふことぬきていふこと

言なぬとて勤ぬものなきはこれハ

自分よりこれぎつとていふことぬきて

いふことぬきていふことぬきていふこと

子曰子夏曰女為君子儒無為小人

儒

儒者に二名あり一人を君子儒とて

いふことぬきていふことぬきていふこと

いふことぬきていふことぬきていふこと

一切の事ありていふことぬきていふこと

子游ハ孔子ノ儒者也。曰。子游。武城宰。子曰。女得人焉爾乎。曰。有。澹臺滅明者。行不由徑。非公事。未嘗至於偃之室也。

子游ハ孔子ノ弟子也。武城ノ宰也。澹臺滅明。魯ノ武城ノ宰也。行不由徑。非公事。未嘗至於偃之室也。

あはれもどぬるのまゝに思ひ入。
うき世にちよきにのこめて。川多らあ
こしつてけぬりてものにならぬ
ものなりとつて。

○子曰。不有祝鮀之佞而有宋朝之美。
難乎免於今之世矣。

祝鮀ハ衛の大夫也。一凡人なるも宋
朝ハ宋れも子也れ等のうらうらも人
なり。○今の世ハ只長くききてる。

ひとものものとまゝハせれ等の
うらうらも人をもも世の中
あまば右も人の辨はと英質と
なりハ才も世の人の人。に
あらうらもものぐら事ハあらあ
きとれ。

○子曰。誰能出不由戸。何莫由斯道也。
人ものものハ何もも及くよる
あらぬもれなりハあつて。

よりのも移ばるるぬと回しつなり。
人のおらしたるつ戸よりのも移ら
なして何とてはみらにゆる事
あながとあり。

○子曰質勝文則野文勝質則史文質
彬彬然後君子

質ハケレ野ノまらぬを以て文
ハ立居ルハヒヒコト
を以て野ハありめにてや一きを

いふ史ハ書也とわがして古実とあり
多らるものといふ。○人ハケレ野ノ質うち
く立居ルハヒの文にたはいる先
きてい居。ゆハ立居ルハヒ
文うちくケレ野ノ実るけきと古
事ちの多ら居とがうらく実る
ぐもめてよろくもど。も文
質とお悪しうる。及れく見
あろ。右の君子とあり。

一。或に此のく。面白む。其の
し。もの。ある。あ。ま。れ。を。知。る。もの。好。む。
もの。を。た。く。ま。だ。ぬ。じ。もの。だ。の
し。の。ア。い。は。ぶ。ぶ。ど。こ。の。や。

○子曰。中人以上。可以語上也。中人以
下。不可以語上也。

人。と。い。は。ゆ。る。ま。は。ま。人。の。品。は。ア
ら。り。と。指。す。と。い。は。中。より。上。乃
し。れ。智。愛。信。の。人。は。向。上。の。道。

理。め。く。も。の。り。き。る。と。い。は。中。より。あ
上。の。人。は。あ。ま。れ。を。知。る。理。成。り。み
な。せ。り。と。い。は。中。に。合。点。ゆ。と。
あ。ら。り。と。い。は。ま。は。人。は。向。上。の。道。
理。と。い。は。ゆ。り。可。し。と。い。は。と。い。は。

○樊遲問。知子。曰。務民之義。敬鬼神而
遠之。可謂知矣。問。仁。曰。仁者。先難而後
獲。可謂仁矣。

民。之。義。と。い。は。人。の。義。理。を。知。者。ハ

道理をみるるありきなりき
 ひとりまの人のけがなを
 第一に法と先を鬼神のとも
 うや下ひく殺はなせざるれ
 福成いのともせむのさ
 こゆる鬼林感念のさな
 あく福をもて印を
 ちのさるる人の義理を
 さら日用の上をさるる事

なるげ理をあらが知れに者ハ
 のと私れけりひてひきか
 ををぬのありきさるる身乃
 けひのはさるる若るるを
 ありてはさるるのありき
 ありきとけりけりけりけり
 をけりけりけりけりけり
 には者ハ後にさるる

子曰知者樂水仁者樂山知者動仁

者静知者樂仁者壽

知者に者の執ハバ知ドク知者
ハ知理を以テ知コトハ知
とものこころ不アなれり其の
まじりてハ知に此の者に
うらに知理を以テ知コトハ
そのこころなれぬこころの
知に山をこのじ氷なれり
山ハ知理を以テ知コトハ知
に乃

○子曰齊一變至於魯魯一變至於道

齊ハ魯の初めを以テ
魯ハ魯の初めを以テ
賢人の治め終りて後

改風俗シヨクコトフクソクこそすべし。よりふり。なり。を。内
秉セイの國クニハ。中ナカ比ヒ桓クニとシふ。思キミもて。霸ハ
術ジユツをモツみ。治チめ。り。し。て。あ。ら。せ。り。
か。ら。り。て。利リ禄ロク功コウ名メイとシじ。が。ら。や。り。に
た。り。き。り。魯ロハ。前ゼンの。由ユり。れ。風フウ俗ソクの
こ。れ。ア。し。も。一。君クニ臣シこ。ろ。を。か。つ。る。者モノ
改セと。な。り。し。バ。秉セイハ。術ジユツ魯ロれ。今イの。風フウ俗ソクの
や。う。ア。ら。せ。り。魯ロハ。一。む。び。の。者モノ
先シ王ワウれ。道ミチに。至イり。し。て。魯ロハ。
先シ王ワウれ。道ミチに。至イり。し。て。魯ロハ。

と。し。め。ら。れ。る。と。た。し。し。た。く。多。く。紙
と。あ。ら。せ。り。き。ば。み。ら。に。至イり。し。て。魯ロハ。
入イル内ナイに。こ。り。り。

○子曰觚不觚觚哉觚哉

觚コハ。も。の。角カクと。い。ふ。こ。に。し。つ。る。觚コハ。
酒サケ飲インり。し。て。思シと。い。ふ。と。ま。う。さ。物モノと。書カキ
行ツクん。角カクの。れ。紙シと。い。ふ。の。二ニ説セツあり。と
い。つ。も。角カクれ。あ。ら。せ。る。の。ゆ。え。觚コと
う。づ。け。あ。り。ま。う。る。に。孔コウ子シの。時ジ分ブンれ

觚とつるものハ角れくして觚の
中意するもこのごもくたれを
觚らんや觚はいしれま
るわ

○宰我问曰仁者雖告之曰井有仁焉
其從之也子曰何為其然也君子可逝
也不可陷也可欺也不可罔也
に者人をとをらんるを智にせられ
井の内へ人が落るくあつとらふ

このあはばつをを救らんめ先に井
の内へ入るや入るも人をををす
に者にあはば入るも人ををを回
死らんいごとを死れり
て回人ををを回る井の内
へ入るも人を死しる人を
物するも人を死しる何
もやらんるをせんや君子ハ意を
のころは死し井の中へ人が

所^{トコロ}否者^{スミギモノアラ}天^{テン}厭^{イヤ}之^{コト}天^{テン}厭^{イヤ}之^{コト}

荀子^{コノ}は^{コト}衛^{エイノ}靈^{レイ}公^{コウ}の^{コト}夫人^{フツ}を^{コト}めい^ミし

め^キは^{コト}君^{キミ}の^{コト}夫人^{フツ}を^{コト}めい^ミし^{コト}の^{コト}礼^{レイ}あり^{コト}る^{コト}ま

い^{コト}へ^{コト}て^{コト}孔子^{コウジ}見^ミて^{コト}終^{ハシ}つ^{コト}て^{コト}さ^{コト}き^{コト}を^{コト}子^シ路^ロが^{コト}

い^{コト}へ^{コト}て^{コト}荀子^{コノ}は^{コト}淫^{イン}乱^{ラン}る^{コト}婦^フ人^ニの^{コト}

不^フ見^ミる^{コト}終^{ハシ}つ^{コト}て^{コト}さ^{コト}き^{コト}を^{コト}子^シ路^ロが^{コト}

い^{コト}へ^{コト}て^{コト}孔子^{コウジ}見^ミて^{コト}終^{ハシ}つ^{コト}て^{コト}さ^{コト}き^{コト}を^{コト}子^シ路^ロが^{コト}

い^{コト}へ^{コト}て^{コト}孔子^{コウジ}見^ミて^{コト}終^{ハシ}つ^{コト}て^{コト}さ^{コト}き^{コト}を^{コト}子^シ路^ロが^{コト}

い^{コト}へ^{コト}て^{コト}孔子^{コウジ}見^ミて^{コト}終^{ハシ}つ^{コト}て^{コト}さ^{コト}き^{コト}を^{コト}子^シ路^ロが^{コト}

天^{テン}より^{コト}あ^{コト}ら^{コト}れ^{コト}を^{コト}と^{コト}して^{コト}あ^{コト}ら^{コト}た^{コト}ま^{コト}る^{コト}ん^{コト}理^リ
の^{コト}を^{コト}た^{コト}る^{コト}は^{コト}あ^{コト}ら^{コト}ざ^{コト}と^{コト}る^{コト}り^{コト}を^{コト}さ^{コト}す^{コト}
宮^ノ不^{コト}事^{コト}ハ^{コト}子^シ路^ロハ^{コト}い^{コト}く^{コト}と^{コト}舎^{コト}於^{コト}き^{コト}ん^{コト}
多^タ免^ミれ^{コト}り

○子曰^{コト}中庸^{コウチュウ}之^{コト}為^タ徳^{トク}也^{コト}其^{コト}至^シ矣^{コト}乎^{コト}民^{タミ}鮮^{ケン}
久^{ヒサ}矣^{コト}

中^{チュウ}ハ^{コト}理^リヲ^{コト}お^{コト}も^{コト}く^{コト}て^{コト}た^{コト}ま^{コト}る^{コト}を^{コト}せ^{コト}た^{コト}
ら^{コト}ぬ^{コト}あ^{コト}ら^{コト}ぬ^{コト}を^{コト}た^{コト}ま^{コト}る^{コト}を^{コト}い^{コト}ふ^{コト}
庸^{ヨウ}ハ^{コト}あ^{コト}ら^{コト}ぬ^{コト}を^{コト}い^{コト}ふ^{コト}

かゝるぬをいふに主極の理
極こころの極と極と極といふ
多々ぬをいふ極と極といふ
るるもするハ中庸の極といふ
きども極といふ極といふ
庸にあつて極といふ極といふ
極といふ極の極といふ極といふ
人こそれ極といふ極といふ極
あつちの極といふ極といふ極

ありて極といふ極といふ極
今世も極といふ極の極といふ極
あつて極といふ極といふ極
るるも極といふ極といふ極
○子貢曰如有博施於民而能濟衆何
如可謂仁乎
の極といふ極といふ極
るるも極といふ極といふ極

主^{タリ}御^ミうり^リ。志^シの^ノ由^ユと^ト何^{ナニ}も^モ
お^オし^シに^ニ。げ^ゲな^ナら^ラば^バ
人^{ヒト}を^ヲ。あ^アり^リて^テ。あ^アり^リ
の^ノう^ウれ^レを^ヲ。人^{ヒト}の^ノう^ウに^ニ
た^タと^ト。あ^アり^リて^テ。あ^アり^リ
あ^アら^ラば^バ。徳^{トク}武^ブ回^ケ。う^ウに^ニ
あ^アら^ラば^バ。う^ウに^ニ。あ^アり^リて^テ。
あ^アら^ラば^バ。

夫^ツ。あ^アら^ラば^バ。う^ウに^ニ。あ^アり^リて^テ。
あ^アら^ラば^バ。

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns on the right page. The text is faint and difficult to read precisely, but appears to be a continuous passage of prose or a letter. The characters are written in dark ink on aged, yellowish paper.

